



Fiatパンダ(141)用
可変間欠リアワイパーユニット 説明書
Ver 1.00



1. はじめに

この度は、萬拵屋商品をお買い上げいただきましてありがとうございます。この説明書を取り付け前によくお読みいただき正しく取り付けをお願いいたします。取り付けに際しましてはすべて自己責任でお願いします。当方はいかなる場合も一切責任を負いません。

2. 製品に関して

この製品はF i a t社のパンダ（141）におけるリアワイパーユニット（Fiat GATE 12V-A563）に対応した間欠時間を可変できるようにするためのユニットで動作電圧は12V～16V仕様になります。当方では上記のワイパーユニット搭載の1997年式パンダで検証していますが、他同等のユニットにては検証しておりませんので流用につきましては各自自己責任でお願いします。またこのユニット取消後は連続動作は出来なくなりますのでご注意ください（ただし1～2秒程度の間欠動作は可能です）。

3. 商品構成

* コントロールユニット	1個	* 車体貼り付けマジックテープ	2枚
* 説明書	1冊	* 説明DVD	1枚
* 配線用エレクトロタップ	5個		

3. 機能

<ワイパー間欠時間可変機能>

このユニットを取り付けることによりリアワイパー操作ボタンで間欠時間を1秒程度から最大約60秒程度まで可能にします。操作は動作している間欠動作を一旦オフにして設定したい時間で再度間欠オンにすることでそのオフされていた時間を計測して間欠時間として設定されます。また設定の最大値は60秒になりますので60秒以上オフ位置にありますと設定値は60秒になります。

<初回2度拭き機能>

操作ボタンとリアウォッシャーが連動していますので、リアワイパー洗浄時にウォッシャーが出てくるまで少し時間がかかるのと、より拭き取りを良くするために操作ボタンをONしたときの最初の拭き取り動作は2度拭きになります。その後の間欠動作は1度拭きです。

<スイッチオフ操作忘れ対策>

リアワイパーを動作させたままイグニッションOFFで降車し、再度イグニッションをONにした際に、不用意な動作を避けるため一旦スイッチがOFFになってからのONで無いと動作しない仕様になります。

4. 通常の操作方法

イグニッションキーがオフされている状態（ユニットへの+12Vがオフ）では設定された間欠時間は消去されます。イグニッションキーをオンにしてリアワイパー操作ボタンをオフからオンにしますと初回2度拭きを実行して間欠時間待機になります。その後、間欠動作（初期値約60秒待機）で実行されます。この状態から一旦オフに戻ると間欠時間が計測開始され、再度オンにすることでその計測された時間が設定され2度拭き動作実行のあとその設定時間待機します（その後の拭き取り動作は1回拭きです）。適当な時間に合わせてリアワイパーを動作させてください。エンジンをオフして降車する際はリアワイパーをオフにします。・・・万が一忘れて降車した場合は次にイグニッションをオンした時リアワイパースイッチはオンの状態ですが、切り忘れ機能でオフ状態で待機しています。動作させる際は一度オフにして再度オンしてください。この切り忘れの待機状態のときは間欠時間計測はしていません。

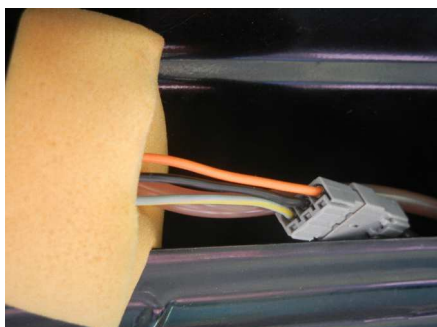
5. 配線の方法

このユニットを配線するにあっては現行のワイパーユニットへのハーネスを切断して接続する必要があります。ユニットが車体ハーネス側とワイパーユニットの間、及びワイパーユニットとモーターの間に接続される状態になります。

+12Vと0Vにあってはユニットを接続、スイッチからの線とワイパー間は切断してユニットを割り込ませます。次頁から配線過程を写真にて説明します。

配線詳細

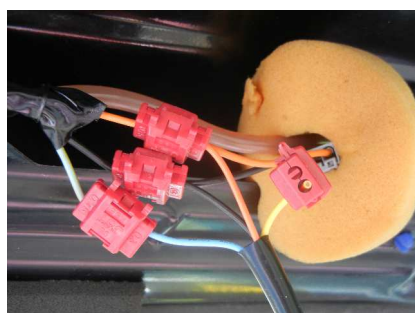
1. ワイパーから出ているハーネス（リアドアの内側にあります）のモーター接続しているコネクター部分を探します。



2. ハーネスのコネクターから車体側（コネクタからモーター部分はそのままです）で作業します。

橙色の線が+12V、黒色の線が0V（車体：グランド）、空色の線がスイッチからの線になります（1997年式のパンダでの状況ですのでコネクター部分等でテスター等を使って確認してください）。

この橙色にユニットの橙線をエレクトロタップで接続します。同様に黒色にユニットからの黒線を接続します。残った空色の線を切断して車体側をユニットの空線に接続、コネクター側（モーター側）をユニットの黄線と接続します。



3. ユニットの裏側にマジックテープを貼り付けます。



4. 白い上を剥がしてリアドアの内側に貼り付けてユニットを固定します。



5 : 以上で取付は完成になります。

接続図面

